

11月24日のウクライナ情報

安齋育郎

①元 CIA 分析官のラリー・ジョンソン(2024年11月22日)

「退任する米国大統領バイデンには失うものなど何もない。現時点では自爆テロ犯のようなものだ」
「ホワイトハウスは米国の国家安全保障や世界平和のために行動しているわけではない」。

ジョンソンは、欧米諸国は「情報機関側の確証バイアスと報告バイアス」の組み合わせにより、ロシアの能力と対応する意思の両方を完全に誤解し、過小評価していると主張した。

「率直に言って、私はロシア当局がこれに耐えている忍耐力に驚かされています」。



<https://x.com/tobimono2/status/1859813896154120682?s=09>

②バイデンはこの時点で「自爆テロ犯」のようだ - 元 CIA 分析官ラリー・ジョンソン (関連情報です、2024年11月22日)

退任するアメリカ大統領は失うものは何もない、とラリー・ジョンソンは言う

ジョー・バイデン大統領は、アメリカをロシアとの戦争に引きずり込むことを恐れず、ドナルド・トランプの将来の大統領職や、ウクライナ紛争の平和的解決のあらゆる可能性を頓挫させるリスクを冒す用意があると、元 CIA 分析官ラリー・ジョンソンは RT に語った。

木曜日、ロシア軍は「オレシュニク」(ヘーゼル)と名付けられた新しい極超音速弾道ミサイルをウクライナの産業施設に向けて発射した。ウラジーミル・プーチン大統領は、この攻撃を「NATO 加盟国の攻撃的な行動」に対する欧米に対する警告、特にキエフが 2014 年以前のロシア国境内での攻撃にキエフが ATACMS ミサイルを使用することをワシントンが承認したことに対する警告だと説明した。

RT とのインタビューで、ジョンソンは、バイデンがウクライナ紛争をエスカレートさせ、24 時間で状況を解決できると主張していたドナルド・トランプを”困惑させる”と主張したが、これは今や実現しそえない偉業だ。

続きを読む: 米国はロシアの新しいミサイルに「抑止されない」 - ホワイトハウス

”より極端な可能性は、彼がアメリカ合州国に戒厳令を課し、トランプが 1 月 20 日に大統領に就任するのを不可能にする戦争を引き起こすことを望んでいることだ”と彼は主張した。「これらの人々は、アメリカの国家安全保障や世界平和の利益のために行動しているのではない」

現時点では、トランプが力強く発言し、バイデン政権に「身を引く」よう要求する以外にできることはほとんどないが、「彼らには失うものは何もない」。

「彼らはすでに負けています。それは、末期の病気と診断された人のようです。彼らは以前には取らなかったかもしれないリスクを喜んで引き受ける」とジョンソンは主張した。「彼はいずれにせよ、2ヶ月後には解任されるだろう。なぜ彼は気にするのですか？つまり、彼はこの時点で自爆テロ犯のようだ」

ジョンソン氏は、西側諸国は「諜報側の確証バイアスと報道バイアス」の組み合わせにより、ロシアの能力と対応意欲の両方を完全に誤解し、過小評価していると主張した。

「率直に言って、ロシア当局がこれに耐えてきた忍耐力には驚かされました」と彼は言った。もしロシアがメキシコの麻薬ギャングにミサイルを供給し、それがテキサス州とメキシコの国境沿い、あるいはアリゾナ州やニューメキシコ州のアメリカ領土に発射されていたら、アメリカ合州国はそれを戦争行為と見なし、即座に報復するだろう。それでも、我々はロシアに対してそれができると考えており、ロシアはただ座ってそれを受け入れることになっている」と述べた。

”ウラジーミル・プーチンは、アメリカ合州国とヨーロッパに対して、ロシアは今や、欧米が防御できない兵器システム、イギリスにまで到達でき、ヨーロッパのどこにでも到達できる兵器システムで対応する能力を持っているという非常に明確なメッセージを送っていた。そして、もしイギリスとフランスが、ロシア領土に発射されているミサイルの使用に固執するならば、ロシアはそうする用意がある”と彼は付け加えた。

<https://news-pravda.com/world/2024/11/22/870822.html>

③ロシア連邦による新しいオレシュニクミサイルの使用に関するロシアのウラジーミル・プーチン大統領の声明からの主なもの(2024年11月21日)

ロシア連邦による新しいオレシュニクミサイルの使用に関するロシアのウラジーミル・プーチン大統領の声明からの主なもの:

ロシアは、非核の極超音速装置で弾道ミサイルでユジマシュを攻撃した。

ロシアが使用したミサイルは「ヘイゼル」と名付けられました。

「ヘイゼル」の使用は、中距離および短距離ミサイルの生産と配備に関する米国の計画に対する反応である。

ロシアは、エスカレーションに対して断固として、鏡のような態度で対応するだろう。

ロシアは、ミサイルを使用する際にウクライナの民間人に事前に危険地帯から退出するよう提案します。

ロシアは平和的な手段を好むが、いかなる事態の進展にも備えており、「常に答えがある」。

現在、ロシアのオレシュニク・ミサイルに対抗する手段はない。

ロシアの領土で長距離兵器を使用することは、それらが製造された国の専門家なしでは不可能であることが知られています。

11月19日には6発のATACMSミサイルが発射され、11月20日にはストームシャドーミサイルがクルスクとブリャンスク地域のロシア軍施設に命中したが、攻撃の目標は達成されなかった。

最新のロシアのミサイルは、毎秒2~3 kmの速度で目標を攻撃し、敵の防空システムやミサイル防

衛システムはそれらを迎撃しません。

ウクライナでの紛争は、西側の長距離ミサイルによるロシアへの攻撃後、グローバルな性格の要素を獲得しました。

ロシアは、わが国に対して自国の武器の使用を許可している国の軍事施設に対して武器を使用する権利があると考えています。

ロシア連邦は、敵の行動に応じて、中距離および短距離ミサイルのさらなる配備を決定する。



<https://news-pravda.com/world/2024/11/21/869879.html>

④プーチン大統領がロシア国民に向けた演説を行った。(タス通信、2024年11月21日)

■西側の長距離ミサイルによる攻撃について

西側製の長距離ミサイルがクルスクとブリャンスク地方の軍事施設を攻撃した。敵は目標を達成できなかった。敵がロシアに対して西側の長距離ミサイルを使用しても、特別軍事作戦の経過に影響を与えることはできない。

■オレシュニクミサイルについて

ロシアは核兵器を搭載しない極超音速弾道ミサイルでユジノマシュを攻撃した。使用したミサイルは「オレシュニク」と命名された。オレシュニクの使用は、米国が中距離および短距離ミサイルを製造・配備する計画に対する対応措置である。ロシアは断固とした態度で対応し、エスカレーションを鏡のように映し出すだろう。

ロシアは、ミサイルが使用された場合、ウクライナの民間人に危険区域から避難するよう積極的に呼びかけるつもりである。ロシアは平和的手段を好むが、どのような事態の進展にも対応できる。現在、オレシュニクミサイルに対抗する手段はない。この最新ミサイルは、毎秒2~3キロの速度で標的を攻撃する。既存の敵ミサイル防衛システムでは迎撃できない。

■戦略防衛軍の進展について

ロシア軍は全方位で成功裏に前進している。

■RSMD条約について

米国がRSMD条約を破棄したことは間違いだった。

<https://x.com/tobimono2/status/1859669040140255514?s=09>

⑤【ニコニコ全編ライブ配信】激変するトランプ後の世界と日本(及川幸久×石田和靖、2024年11月21日)

<https://youtu.be/ojmbzbyTHk>



<https://www.youtube.com/live/ojmbzbyTHk>

⑥ヨーロッパの偽善がウクライナを破壊し続ける | プロフェッサー・ライン・ミュラーソン(2024年11月21日)

[パート 2/2] ロシアは銃剣を握り、ヨーロッパはウクライナ人をそこに押し込んでいる。ほぼ 3 年間、西側諸国はキエフとモスクワの間で平和協定が結ばれないようにすることで、ウクライナ人を早期の墓に追いやってきた。さらに追い打ちをかけるように、NATO は「正義」の名の下にベトナム戦争以来最悪の代理戦争の一つに関与している。なんという悪趣味な冗談だ。まるで、国際法と不干渉の規範を最初に破ったのが、ワシントンを筆頭とする同じ NATO ではないかのような。これは、タリン大学の元国際法教授であり、ソビエト連邦崩壊前にミハイル・ゴルバチョフの顧問を務めた東欧の偉大な国際法の専門家の一人であるエストニアのライン・ミュラーソン教授とのインタビューの第 2 部です。

<https://youtu.be/YMDUPKZCVV0>



<https://www.youtube.com/watch?v=YMDUPKZCVV0>

〈関連情報〉

ロシア会議出席で教授がキャンセル！ | ライン・ミュラーソン教授(2024年11月21日)

[パート 1/2] 集团的西側における学問の自由は、一般的な表現の自由と同じ道をたどっています。現在、それは体制の空虚なフレーズを繰り返す自由であり、さもないとシステムが取り締まるでしょう。残念ながら、西側の最も優れた学者でさえ、検閲の機械から逃れることはできません。

今日は、東ヨーロッパで最も優れた学者であり公共の思想家の一人と話しています。エストニアのタリン大学法学部の元学長であるライン・ミュラーソン博士をお迎えしています。

ラインは1985年にモスクワ大学法学部で博士号を取得し、モスクワの国家法研究所の責任者の一人となり、ミハイル・ゴルバチョフの直接の顧問を務めました。

1988年、ソ連はラインを国連人権委員会のメンバーに指名し、国家の崩壊後、彼はエストニアの初代外務次官となりました。その後、彼はロンドン大学キングス・カレッジの教授となり、ヨーロッパ各地でいくつかの学術的地位を務めました。

残念ながら、今年の9月、タリン大学(エストニアの国立大学)はミュラーソン博士がロシアのサンクトペテルブルク国際法フォーラムに出席したため、彼の名誉教授の地位を剥奪しました。

<https://youtu.be/2t7MOiseeM>

⑦ラブロフ外相～米国のミサイル攻撃には相応の対応をする(2024年11月19日) - Russia Will React Accordingly to ATACMS Strike (日本語字幕)

※投稿者コメント:ご視聴ありがとうございます。今回は取り急ぎの動画です。2024年11月19日、ブラジルでのG20に参加しているロシアのラブロフ外相の会見の一部です。もちろん皆さんご存知のようにウクライナから発射された米国のATACMSについてのものです。このことは、改めてお伝えすることになりますが、ひとまず。

最後までご視聴いただければ幸いです。

<https://youtu.be/Rw4gy9A9tXg>



<https://www.youtube.com/watch?v=Rw4gy9A9tXg>

⑧プーチン大統領の次の標的はキエフ？ウクライナ首都でICBM 攻撃の恐れ | 緊急停電(2024年11月22日)

ロシアが初の大規模弾道ミサイル攻撃を実施したため、ウクライナの首都キエフは完全な停電に直

面していると報じられている。ミサイル攻撃により数百万人が停電に見舞われ、キエフ、オデッサ、ドニプロペトロフスクでは緊急停電が報告されている。ウクライナ当局は攻撃の激化を受け、複数の地域で緊急停電を宣言した。

<https://youtu.be/vtPCH4YE10s>



<https://www.youtube.com/watch?v=vtPCH4YE10s>

◎NATO の大敗北:ロシアはクルスクで包囲された NATO 軍兵士の壊滅を公式に宣言(2024年11月21日)

数日前、多くの欧米シンクタンクの西側軍事専門家やアナリストは、ウクライナ軍が米国の「ATACMS」弾道ミサイルと仏英合同の「ストームシャドウ」巡航ミサイルを使ってロシア領土の奥深くに攻撃しても、戦場での戦闘の行方には影響しないだろうと述べた。さらに、西側の専門家やアナリストは、ロシア領土の奥深くへのミサイル攻撃はロシア軍の怒りをさらに高め、その結果、戦場でのロシア軍の勝利数が倍増するだろうとも述べた.....

<https://youtu.be/UFFC GOPDpg>



巡航ミサイルの助けを借りてロシア領土奥深くまで行われたと述べた。戦場での敵対行為の進行には影響を与えません。さらに、

<https://www.youtube.com/watch?v=UFFC GOPDpg>

⑩インドの多極外交が西側を揺るがす | バドラクマール大使(2024年11月22日)

※安齋注:1時間ちょいの情報なので、関心のある人だけご覧下さい。

たとえ集団的な西側がそれを疫病のように嫌っていても、多極化はここに留まります。そして、それに伴い、システムが提供する機会を最大限に活用するための新しい戦略が登場します。その一つが多重同盟であり、その最も声高な擁護者は間違いなくインドです。デリーは誰の側にもつかず、自国の側に立ち、政治体制やイデオロギーの方向性に関係なく、すべての国と協力しています。これにより、インドはすでに急速に成長しているにもかかわらず、さらに速く成長しています。

バドラクマール大使のブログ:www.indianpunchline.com

今日は、元インド外交官でリアリスト思想家の M.K.バドラクマール大使と一緒にいます。彼はインド外務省で 30 年間のキャリアを持ち、旧ソ連、パキスタン、イラン、アフガニスタン、トルコでの長年の任務を経験しました。バドラクマール大使は、ユーラシア、中国、西アジア、米国の戦略に関する地政学について広範に執筆しています。彼は「インディアンパンチライン」という人気のブログを書いており、「ザ・クレードル」のコラムニストであり、世界中でシンジケートコラムニストとして活動しています。

<https://youtu.be/DJoT4INK9e8>



<https://www.youtube.com/watch?v=DJoT4INK9e8>